
犯人は？ニホンイシガメを急激に減少させる外来種と緩やかに減少させる外来種

西堀智子^{1, 2}・加賀山翔一²・松本健二^{1, 2}・長谷川雅美^{1, 2}

¹171-0032 東京都豊島区雑司ヶ谷 1-24-12 爬虫両生類情報交換会

²274-8510 千葉県船橋市三山 2-2-1 千葉県ニホンイシガメ保護対策協議会

What is the culprit? Invasive species causing rapid decline and slow decline of the Japanese pond turtle.

By Tomoko NISHIBORI^{1,2}, Shawichi KAGAYAMA², Kenji MATSUMOTO^{1,2}, and Masami

HASEGAWA^{1,2}

¹*Reptile and Amphibian Information Networking Group, 1-24-12 Zoshigaya, Toshima-ku, Tokyo 171-0032, Japan*

²*Conservation Activity Council of the Native Freshwater Turtles in Chiba Prefecture, 2-2-1 Miyama, Funabashi, Chiba 274-8510, Japan*

今回発表した内容は、既に日本爬虫両棲類学会の「爬虫両棲類学会報」2024 (1) において、以下のタイトルで発表したものの一部を紹介したものである。詳細は論文を参照されたい。

長期調査から見えるニホンイシガメ減少の実態 ～爬虫両生類情報交換会「南房総イシガメ観察会」が語るもの

生物多様性に配慮した公園でニホンイシガメを守る ～井の頭池の取り組み～

八木 愛

180-0013 東京都武蔵野市西久保 3-8-16 アンダンテ武蔵野 106 認定 NPO 法人 生態工房

Conservation for *Mauremys japonica* in the park: work on Inokashira Pond.

By Ai YAGI

NPO Eco-Works, 3-8-16-106, Nishikubo, Musashino, Tokyo 180-0013, Japan

都立井の頭恩賜公園にある井の頭池 (4.2ha) は湧水を水源とする自然池沼である。水生昆虫や水草が豊富なことで戦前から知られていたが、1960 年代以降の湧水量の減少や、公園管理の変遷の中で生物多様性が低下した。2010 年代以降は、かいぼりを軸とした自然再生の取組によって

環境の改善が進みつつある。近年に行われた一連の取組のうち、ニホンイシガメとの関連が深い「水域-陸域の移行帯の再生」について報告する。井の頭池は池岸の全周に護岸が整備されており、岸付近で約 1 m の水深がある。護岸によって、汀線付近の移行帯の喪失や、水域-陸域間を利用

する生物の移動の阻害が起こっていた。2015～2017 年度に、移行帯の環境を修復する目的で池岸の一部の区間で、護岸の前面に「浅場」と呼ばれる水深の浅い段の造成が行われた。浅場には池底から取った土が充填された。水深の浅い湿地環境が創出されたことにより、井の頭池では長年確認されていなかったさまざまな湿生植物が埋土種子から発芽した。在来魚の稚魚、トンボ、バンやカモ類等の水鳥が浅場を利用しているほか、ニホンイシガメやニホンスッポンの幼体の生息も確認されている。

浅場の後背地にあたる陸域には林が広がっている。しかし、林内は日照不足や踏圧によって下層植生が乏しく、生物多様性が豊かとは言えない状況であった。ニホンイシガメは産卵や採食のために水域に近い草地や林を利用するので、生息地の質を向上させるためには陸域の環境も改善する必要があった。

陸域での取組は、浅場に隣接している「ハンノキ林」と呼ばれる区域で実施された。ハンノキは湿地に生育する高木で、東京都レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に選定されている。ハンノキ林では、2018 年の台風で多数の倒木が発生したことから、ハンノキ林再生の取組が開始された。この作業の一つとして堆積土の除去が行われた。ハンノキ林

がある場所は地下水位が高いが、過去に土砂が搬入された経緯があり、ハンノキの生育に適さない乾燥した状態になっていた。こうした状況の改善を目的として、2019 年から堆積土の除去作業が行われている。堆積土を除去した範囲では、地下水位が上昇した時期に水が染み出して冠水するようになり、湿生植物が生育するまでになっている。

ハンノキ林ではニホンイシガメが産卵場所として利用していることが確認されていたが、堆積土の除去が進み冠水範囲が拡大した 2024 年には、秋期に地上に這い出した幼体が冠水した湿地を利用している様子が確認された。湿地ではトンボや水生甲虫の生息も確認されている。井の頭池に後背湿地が創出されたことにより、ニホンイシガメを含む湿地の動植物にとって生息に適した環境が増加したと考えられる。

井の頭池でこれまでに整備された浅場や後背湿地は、適切な管理を継続して良好な状態で維持していくことが重要である。また、浅場が整備された区間は池岸の 9% である。生物多様性の喪失を止めて反転させていくネイチャーポジティブの観点から、今後も浅場の整備を継続していくことが期待される。